

夏休み中の「定期的な預かりモデル事業」の様子から



まだまだ厳しい暑さが続く中、夏休みも終わり、2学期がスタートしました。

以前にお知らせしました3歳児の「定期的な預かりモデル事業」は、この夏休み中も休まず行われました。その様子を少しだけお伝えしたいと思います。

8月17日(木)は、第6回目の預かり保育の日でした。様子を見に行ってみると、子どもたちが先生と一緒に魚釣りをして遊んでいました。

赤い魚や黄色い魚、紫の魚もいます。それを糸の先に磁石のついた釣り竿で釣るのです。子どもたちは、すぐにその魚釣りに夢中になってしまいました。するとその様子を見ていた男の子が、「これ僕のもの！」「みんな、僕のだよ！」と言って、魚をみんな抱え込んでしまいました。あんなにかわいい魚ですから、いっぱい欲しくなる気持ちもよくわかります。

するとそこにいた女の子が、「これ、みんなのだよ。」と、その男の子に優しく言いました。こういう公平性が思いやりの心の土台になるのかもしれない。3歳の女の子がこんなことを言えるのです。子どもってすごいなと嬉しくなってしまう。

そのとき、そばにいてその様子を見ていた先生が、「『いっぴきちょうだい』って言うてみたらどうか・・・・？」と、男の子に声をかけました。するとその男の子は、「いっぴきちょうだい。」とはっきりと言うことができたのです。まだ3歳の子どもたちですが、何とかして自分たちで問題を解決していきます。

週に一度だけ集まる「たんぼぼ組」ですが、周りに友だちがいて、そして、その子どもたち成長を信じて優しいまなざしで見守る先生がそばにいて、子どもは自分たちの力でどんどん学んでいきます。そしてみんなで成長していきます。

集団には、やはり子どもたちを成長させる大きな力があるのだなと感じました。

「たんぼぼ組」の3歳児、8名が加わることで、幼稚園の中の「人とのかかわり」は一層増え、豊かな教育活動が展開できるのではないかと考えています。

2学期も保護者のみなさま、地域のみなさまのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い致します。